



立教大学
RIKKYO UNIVERSITY

令和8年1月21日
教育課程部会
外国語ワーキンググループ
資料 3

英語の語彙学習方略とその指導

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
外国語ワーキンググループ（第7回）

立教大学 異文化コミュニケーション学部
立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科
中田達也

- 一斉授業における語彙指導には限界がある。
 1. 学ぶべき語彙数が多いため、限られた授業時間で必要な語彙をすべて教授するのは非現実的である (Nation, 2022)。
 2. 学習者ごとに知らない単語が異なるため、一斉授業における直接的な語彙指導は非効率的である (鈴木, 2024)。
- 家庭学習との連携が重要。
- 授業中に語彙を直接教えるよりも、教室外で学習者が自律的に語彙を学習できるように、学習方略の指導を優先すべき (Nation, 2022)。

1. 多読・多聴による語彙習得
2. 単語カードによる学習
3. 辞書の使用
4. 記憶術（語呂合わせ、単語部品方略、カタカナ英語）

1. 多読・多聴による語彙習得



- 多読 (extensive reading) ・ 多聴 (extensive listening) :
簡単な英文をたくさん読む（または聴く）活動。
- 多読・多聴を通して・・・
 - 1) テキスト中に出てきた未知語を自然に習得する。
 - 2) 既知語に関して、より深い知識（例：発音、活用形、派生形、文法的機能、コロケーション、連想）を身につける。

2. 単語カードによる学習



- 片面に英単語、もう片面に単語に関する情報（例：和訳、品詞、発音記号、例文）が書かれたカードを用いる学習法。
- 「単語カードで学習しても、コミュニケーションでは使えない」と批判されることもあるが、語形と意味のマッピング（＝英単語から意味を想起、あるいは意味から英単語を想起できること）の知識をつける上では効果的・効率的 (Nakata, 2020)。
- スマホやタブレットの単語カードアプリも広く使われている。
- 分散効果 (spacing effect) や想起練習効果 (retrieval practice effect) などの学習原則に基づいて作成されたアプリもある (Kaitsu & Nakata, 2025)。
例) iKnow!, Memrise, mikan, Quizlet

3. 辞書の使用



- 1) 単語に関する深い知識（例：活用形、派生形、文法的機能、コロケーション、連想）の習得を促す。
- 2) 多義語の理解を促進する。
 - 例) **stress**：「心身へのストレス、強調、圧力、強調する、緊張を与える、緊迫する・・・」
 - **stress**の中心義（コアミーニング）：「強い圧力（をかける）」
（オーレックス英和辞典第2版）

- 紙の辞書の利点

- 1) 一覧性が高い。
- 2) 付箋・ハイライト・書き込みをしやすい。

- 電子辞書（オンライン辞書やスマホの辞書アプリを含む）の利点

- 1) 検索性に優れる（例：複数辞書の串刺し検索、成句・用例検索、後方一致検索）。
- 2) 音声や動画などのマルチメディアが利用可能。

4. 記憶術（中田, 2023）



- 1) 語呂合わせ (keyword method) :
例) blame = 無礼者と非難する
- 2) 単語部品方略 (word part strategy) :
例) export = ex- (外へ) + port (運ぶ) → 輸出 (する)
- 3) カタカナ英語 :
例) サブスクは定期購読 → subscription = 「定期購読」

語彙学習方略に関する留意点（中田, 2023）



- あらゆる語彙のあらゆる知識を効果的に習得できる、完璧な語彙学習方略は存在しない。
- 語彙学習方略の効果は、「どのような単語を身につけたいか？」「単語に関するどのような知識（例：和訳、スペリング、発音、コロケーション）を身につけたいか？」によって変わる。

多読・多聴による語彙学習

- 利点：単語に関する深い知識（例：活用形、派生形、文法的機能、コロケーション）の習得に適する。
- 欠点：習得に時間がかかり、効率が良くない。

単語カードや記憶術（語呂合わせ、単語部品方略、カタカナ英語）による学習

- 利点：語形と意味（和訳）を結びつけるうえでは有益である。
- 欠点：単語に関する深い知識の習得には適さない。

- 学習方略を効果的に使うためには、方略使用を制御する能力（＝様々な方略の中から状況に適したものを選択し、必要があればより適切な方略に切り替える能力）が必要 (Nation, 2022)。
- 例) 未知語について辞書で調べた後、その単語に関する知識を定着させるために、単語カードを使用して定期的に復習する。
- 「メタ認知リソース利用」 Metacognitive Resource Use (Mizumoto, 2023)

1. 教師が語彙学習方略を説明・実演するだけでは不十分。
2. 学習者が方略を使えるようになるまで、十分な練習を積む必要がある（1つの方略につき、数週間にわたって少なくとも4～5時間）。
3. 語彙学習方略の運用能力をテストなどで確認し、フィードバックを提供することも重要。
例）Guessing from Context Test; Word Part Levels Test (Sasao, 2020)
4. 語彙学習方略を使用した際に、うまくいった or いかなかった点を振り返ったうえで、教師に報告し、助言を受ける。

コミュニケーションで単語知識を使うためには？



- 英単語とその意味（和訳）を結び付けられるだけでは不十分。
- 単語に関する深い知識（例：発音、活用形、派生形、文法的機能、コロケーション、連想）や流暢性（**fluency**：必要な語彙知識に瞬時にアクセスするスピード）を身につけることが有益。

1. 未知の言語要素（例：語彙・文法）がほとんど含まれない、難易度の低い教材を使用する。
2. 時間制限のある活動を行う。
3. 同じ活動を繰り返す。
4. 技能統合型の活動 (linked skills activity) を行う。
5. 多読・多聴をする。

コミュニケーションで単語知識を使うためには？



- 単語がどのような定型表現（フレーズ）で用いられるかという知識も有益（中田, 2024）。
- “round”という語を知るためには：
 - a round table（丸いテーブル、円卓）
 - a round trip（周遊旅行、往復旅行）
 - a round number（端数のない数）
 - round up（～を集める、端数のない数に切り上げる）
 - round down（切り捨てる）
 - round off（四捨五入する）
 - a round dozen（ちょうど1ダース）
 - make [go] one's rounds（巡回する）
 - a round sum（かなりの額）
 - a round of applause（ひとしきりの拍手）
 - a round of drinks（全員へ行き渡る分の飲み物）

コミュニケーションで単語知識を使うためには？



	一般的な表現	文法的には正しいが、通常は使われない表現
1	I have four uncles. (私には4人のおじがいます)	The brothers of my parents are four. (私の両親の兄弟は4人です)
2	It's half past six. (6時30分です)	It exceeds six by a half. (6時を30分超過しています)
3	How do you know him? (どうして彼の事を知っているのですか？)	Why do you know him? (なぜ彼の事を知っているのですか？)
4	The schedule isn't set in stone. (スケジュールは確定していない)	The schedule is set in stone. (スケジュールは確定している)
5	It's raining cats and dogs outside. (雨がざあざあ降っている)	Is it raining cats and dogs outside? (雨がざあざあ降っていますか？)
6	fast and furious, supply and demand, sooner or later	furious and fast, demand and supply, later or sooner
7	heavy user / drinker / smoker	heavy eater
8	strong wind, heavy rain	heavy wind, strong rain

- Kaitsu, T., & Nakata, T. (2025). Analysis of smartphone-based flashcard apps for second language vocabulary acquisition. *Computer Assisted Language Learning*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1080/09588221.2025.2481396>
- Mizumoto, A. (2023). Data-driven learning meets generative AI: Introducing the framework of metacognitive resource use. *Applied Corpus Linguistics*, 3(3), 100074. <https://doi.org/10.1016/j.acorp.2023.100074>
- Nakata, T. (2020). Learning words with flash cards and word cards. In S. Webb (Ed.), *Routledge handbook of vocabulary studies* (pp. 304–319). Routledge.
- Nation, I. S. P. (2022). *Learning vocabulary in another language* (3rd ed.). Cambridge University Press.
- Pawley, A., & Syder, F. H. (1983). Two puzzles for linguistic theory. In J. C. Richards & R. W. Schmidt (Eds.), *Language and communication* (pp. 191–226). Longman.
- Sasao, Y. (2020). Measuring the ability to learn words. In S. Webb (Ed.), *Routledge handbook of vocabulary studies* (pp. 419–432). Routledge.
- 鈴木祐一. (2024). 『あたらしい第二言語習得論』 研究社.
- 中田達也. (2023). 『最新の第二言語習得研究に基づく 究極の英語学習法』 KADOKAWA.
- 中田達也. (2024). 『英語定型表現の科学』 研究社.